

# ふえき

時代を超えて変わらないもの

特集

岡山107のアクティビスト図鑑

## 90

公益財団法人 福武教育文化振興財団  
機関誌「不易」





岡山県  
6

キャリア形成支援  
プロジェクトTUCURU

自炊実践型  
子ども食堂  
「おなかまキッチン」  
の設立

石井恒平




岡山県  
7

一般社団法人岡山表町文化振興協会

伝統を次世代へ！  
表町「日限地蔵&  
甚九郎稲荷」  
ちびっこ両参り

原憲一




岡山県  
8

さい子ども会

若者に向けた  
日本版地域の家  
「カルティエ・うの」

泉明佳




岡山県  
9

NPPO法人  
みんなの劇場・おかやま

レッツ文芸！  
せとうちの  
WA

太田 颯子 妹尾 実佐子



岡山県  
10

岡山多胎サークルおてて

多胎児を安心して  
育てることのできる  
環境づくり

里見 沙恵美



岡山県  
11

一般社団法人シネマフィルム

子どもがゼロから映画を  
制作「子どもえいがクラブ」

山本達己




岡山県  
12

岡山ユネスコ協会

世界とつながる  
「多文化共生」  
スタディ・カフェ  
2026

徳山 順子



岡山県  
13

一般社団法人  
DESIGN GOALS

産学農福カルタで  
一次産業の良さを  
次世代へ繋ぐ

高橋京恵




岡山県  
14

たのしいおんがくフェスを  
つくる会

にじのねたのしいおんがく  
フェス2027

田中 朋子



岡山県  
15

特定非営利活動法人  
O-99おかやまおしえてネット

石育講座  
おかやま  
子どもジオくらぶ  
「親子で楽しむ  
石の不思議」

山本 典子




岡山県  
16

一般社団法人ブルービレッジ

上道防災  
マルシェ

西井憲一郎



岡山県  
17

和太鼓・チームみなみつつ子

和太鼓で御津の町に  
笑顔と元気をとどけ隊！  
Part 3

麻田 邦彦



岡山県  
18

文字を書く力を育む  
岡山子ども書文化育成  
実行委員会

文化体験事業

岡山 こと書

吉田 勝子



岡山県  
19

OMSA

ぬいぐるみ病院

百合草 綺乃




岡山県  
20

学校図書館を考える会・  
おかやま

学校図書館の充実に  
むけた学習と広報

絹川 利恵子



岡山県  
21

地域共学ラボCLIP

問いを立てる力を育む  
実践ワークショップ

吉川 幸



岡山県  
22

岡山大学まちづくり研究会

瀬戸内市蒙掛地区、  
真庭市余野地区の  
交流促進と  
子供の居場所作り

中野 琴音



岡山県  
23

御津地域活性化協議会

パチリ  
みつ映えて地域交流・  
世代交流 パート2

小山 真二



岡山県  
24

岡山多読クラブ

多読活動を通じた  
日本語学習者と  
日本人との交流

太田 朗子



岡山県  
25

犬鳥ソーシャルデザイン研究会

犬鳥ソーシャルデザイン  
実践プログラム

Creighton  
Christopher



岡山県  
26

犬鳥・明るい部屋

五感で学ぶ  
「ソーシャルデザイン」  
体験講座@犬鳥

橋詰 敦夫



岡山県  
27

「包括的教育」  
未来プロジェクト

保育者と  
保育者志望学生のための  
包括的教育  
ワークショップ

馬場 訓子



岡山県  
28

高校生de作る音楽会実行委員会

高校生de作る音楽会

川崎 泰子




岡山県  
29

小さい劇作家フェス  
実行委員会

「劇作家フェス」の開催と  
「ネオ観客」の研究

スミカオリ




岡山県  
30

岡山西御門金春会

岡山における  
能楽ワークショップと  
次世代への  
伝統文化継承事業

金春 飛翔




岡山県  
31

法とアート・デザインに  
関する研究会

法とアート・デザインで  
社会を覗く  
「ほおぐめがね」

山下 宗一郎



岡山県  
32

NPPO法人  
バンクオブアーツ岡山

ピアノトリオコンサート  
& NYの巨匠とのジャム  
セッション企画

横山 圭介



岡山県  
33

キャラメルマキアート

対話型鑑賞を  
楽しむためのアート展

稲葉 恵理那



岡山県  
34

CinéRuelle

記憶や体験の継承を  
考えるための、  
小森はるか監督作品  
の特集上映

吉川 諒



岡山県  
35

高橋 恭子

岡山発！  
男女Wポーズで  
人物を究める  
セッション会




①地域社会(コミュニティ)の活性化に取り組み活動

②次世代育成に取り組み活動

③教育の質の向上や普及に取り組み活動

④文化芸術の質の向上や普及に取り組み活動

# 備中エリア BITCHU AREA ACTIVIST



倉敷市

51. 中村 慎吾
  52. みずしま滞在型環境学習コンソーシアム
  53. 特定非営利活動法人ぶどうの家わたぼうし
  54. 松原 龍之
  55. 真備町竹のオーケストラ
  56. 倉敷少年少女合唱団
  57. KASUMIプロジェクト
  58. CAN-Science
  59. グローカル探究活動発表会実行委員会
  60. グローバルセンター
  61. 倉敷歴史的都市景観デザインセンター準備室
  62. 老いのプレーパーク 岡山
  63. 備中神楽保存振興会
  64. 一般社団法人大江戸玉すだれ岡山中竹風会
  65. 倉敷美術協会
- 笠岡市
66. 白石島 もやいの会
  67. かさおか皆のマッププロジェクト
  68. 応神太鼓保存会・童
  69. デビッド・マシューズワークショップ実行委員会
- 総社市
70. 岡山アート&クラフトプロジェクト
  71. こども・はぐくむ・ラボ
  72. 池田わくわくプロジェクト
  73. 昭和五つ星学園義務教育学校と地域が交わる「夢広場」をそだてる会
  74. 備中温羅太鼓

高梁市

75. 一般社団法人JI-JO
  76. 高梁100challenge
  77. きびキビ元気塾
- 新見市
78. 鯉が窪湿原を守る会
  79. 神代和紙保存会
  80. 公益財団法人新見美術振興財団
  81. 新見市哲西牧水顕彰会

宇野港編集室

クリエーター・イン・レジデンス  
「宇野港でつくる」

橋本 誠

「あそびのデザイン」  
実行委員会

高齢者と子どもたちが一緒に楽しむ「新しいあそび」の企画

大百 彰三

牛窓クラフト散歩実行委員会

クラフト文化による地域コミュニティの活性化に取り組む活動

西村 祐希

3D造形による糸操り人形劇の再構築と地域劇団への人形技術協力

高原 圭家

Polish Art and Science Mission In Japan

瀬戸内市に響くポーランド現代音楽。VOLOSI in Setouchi

Predygier Radoslaw

備前四ツ拍子保存会

備前四ツ拍子の保存及び伝承活動

藤原 定

特定非営利活動法人赤磐の漆を守る会

県内高校生に対する漆伝統文化の継承

坪井 恒久

一般社団法人壁學會

絵本で育む子どもと大人の絆ー講演会とわんこワークショップー

大槻 順一郎

旧和氣小学校みんなで夜ASOBI  
実行委員会

ハタナカヨースケ

みんなのアトリエプロジェクト

中村 和馬

「ひと・もの・こと」とつながる佐伯小夢プロジェクト

山本 和宏

戦前の岡山神社を鳥瞰図に描くための情報収集活動

中村 慎吾

みずしま滞在型環境学習コンソーシアム

地域の文化資源を掘り起こし「水島の価値」を創る

古川 明

特定非営利活動法人ぶどうの家わたぼうし

演劇で疑似体験！支援学校×高校生×多世代で考える避難所生活

津田 由起子

岡山のおき幼き声を次世代に

松原 龍之

頭島あかりまつり実行委員会

大人も子どももあの頃へ、「頭島あかりまつり」

片倉 弘貴

みらいSTEAMラボ

テクノロジーでつながる子どもの居場所事業

櫻井 彩

特定非営利活動法人 f.saloon

備前市まちじゅうユースセンタープロジェクト

守谷 克文

備前凸版工作所

備前凸版工作所による谷内庸生作品展(仮題)

大西 真司

55 真備町竹のオーケストラ

結成30周年コンサート

守屋 慈子



60 グローバルセンター

留学生等と学ぶ、日本と世界の見方をひろく多文化アート事業

江原 雅江



65 倉敷美術協会

70周年記念倉敷美術展

後藤 晋



70 岡山アート&クラフトプロジェクト

岡山アート&クラフトプロジェクト

達脇 知弘



74 備中温羅太鼓

備中温羅太鼓 50周年記念公演 / 第17回和太鼓フェスティバル

塩尻 司



78 鯉が産湯原を守る会

ハッチョウトンボを蘇らせるための鯉が産の環境保全

三上 雄二



56 倉敷少年少女合唱団

ハンガリーの作曲家 GYÖNGYÖSI Levente 氏に新曲委嘱・演奏

難波 夕鼓



61 倉敷歴史的都市景観デザインセンター準備室

次世代育成のためのPBLプログラムの試行と公民学連携体制の構築

成清 仁士



66 白石島もやいの会

「白石島の四季を遊ぶ」体験を通じた地域活性化プロジェクト

天野 孝剛



71 こども・はぐくむ・ラボ

本物の体験を子どもたちに！馬頭琴&ドンブラコンサート

林 裕子



75 一般社団法人JI-JO

子どもから備えを広げる災害自助体感ゲームPREPPERの普及・活用

小野 智行



79 神代和紙保存会

神代和紙を軸とした多世代交流と、子ども自身による卒業証書渡ぎ

仲田 紗乃



57 KASUMIプロジェクト

高校生×地域×大学が挑む！「連島レンコンジェラート」

川添 賢一



62 古いブレイバーク岡山

ハレノフで覚醒した出演者が老いをテーマにいざゆかん！

2026 興梠 喜久蔵



67 かさおか皆のマッププロジェクト

金浦・笠岡まちの魅力を集める地図づくり

渡部 麻由



72 池田わくわくふれあいデー

池田わくわくプロジェクト

石井 恭子



76 高梁100challenge

備中高梁会議&高梁100challenge 伴走プロジェクト

横山 弘毅



80 公益財団法人新見美術振興財団

展示と梱包を学ぶ連続講座

林田 昌吾



58 CAN-Science

地域を学び、魅力を発信！沙美海岸体験学習と次世代リーダー育成

神原 優一



63 備中神楽保存振興会

30周年記念公演で石見神楽に賛助出演いただくため

藤原 肇



68 応神太鼓保存会・重

応神太鼓40周年コンサート

和の世界 世代をこえて

平井 千春



73 昭和五つ星学園義務教育学校と地域が交わる「夢広場」をそだてる

山田 ゆきえ



77 きびキビ元気塾

きびキビ元気塾 | 学生と専門家の協働で高める地域支援基礎力

井上 優



81 新見市哲西牧水頭彰会

新見市哲西牧水頭彰会 30周年記念事業

安達 悦久



59 グローカル探究活動発表会実行委員会

2026 グローカル探究活動発表会

松沢 克彦



64 一般社団法人大江戸玉すだれ岡山社中竹風会

大江戸玉すだれ竹風会 15周年記念公演 竹の芸能玉すだれ 888Ver.

個川 榮まつ



69 デビッド・マッシュューズ ワークショップ実行委員会

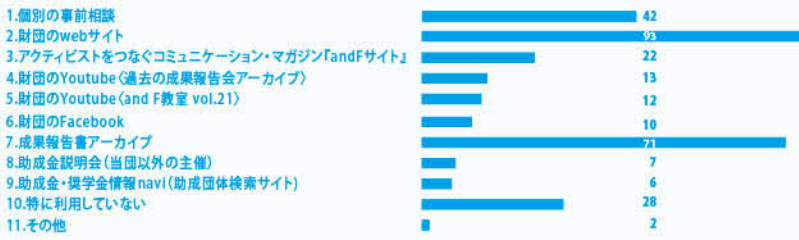
デビッド・マッシュューズ コンサート in 笠岡

地域と未来を繋ぐ音楽会

中村 尚美



Q.応募を行う際、利用して役立ったプログラムや情報があれば教えてください。(複数回答可)



申請者の全員に聞きました

久米南町 103 初山神社 神楽・棒使い保存会 松本 昌之

勝央町 97 勝央美術文学館 岡本綺堂顕彰 5周年記念 こども怪談コンクールプロジェクト 神田 寿則

真庭市 91 真庭学習会 高校生による 「つながる、学ぶ、成長する」 学習会 藤井 葵

久米南町 104 一般社団法人もりとき 放置された人工林を 女性も子供もできる 「皮むき間伐」で 光の森へ 橋本 雅 高瀬佐代子 鈴木 明子

奈義町 GifTree 98 五感で出会う世界一 音楽と食の 異文化体験 プロジェクト 上田麻純 井本亜希 大浦絢子

真庭市 NPO法人manabo-de 92 森年 雅子 開発 ユーソカル プログラムの

美咲町 105 子どもと地域の夢を広げる 柵原ドリム学Project 子どもと地域の夢を広げる 柵原ドリム学 Project 新免 道明

奈義町 99 美作ネットワーク協議会 全校販売実習 「津商モール」による 学びと商店街活性化 の効果 延原 宏

真庭市 93 蒜山ミライ会議 共に語ろう。 共に変わろう。 私たちのミライのために。 永田 浩史

神奈川 106 池田動物園 奉還町商店街 連携委員会 香川 107.サイエンス エデュケーション研究会

西粟倉村 100 skilloop実行委員会 地域に クリエイティブの ループをつくる 「Skilloop」 具志堅 詩織

真庭市 94 まに図書館サポーターズ 真庭の図書館で 映画祭を楽しもう！ 多文化共生と まなび！ 名和 輝明 福島 久美子

神奈川 106 池田動物園 奉還町商店街 & 池田動物園 コラボ！ お店を巡る 動物発見ラリー！ 坂口 幸亮

西粟倉村 101 清家 悟 ラクロス普及・ 地域定着推進事業

美作市 95 Palette Scene アートを身近に感じてもらう取り組み sakomika

香川 107 サイエンス エデュケーション 研究会 科学×生き方×探求 Well-being 十川 麗美

西粟倉村 102 森々燦々実行委員会 環世界を共有する 表現祭「森々燦々」 秋山 淳

美作市 96 森の展示室UTE 実行委員会 森の展示室UTEによる 地域文化体験 事業 丸山 耕佑



- 西粟倉村  
100. skilloop実行委員会  
101. 清家 悟  
102. 森々燦々実行委員会  
久米南町  
103. 初山神社 神楽・棒使い保存会  
104. 一般社団法人もりとき  
美咲町  
105. 子どもと地域の夢を広げる 柵原ドリム学Project

- 美作市  
95. Palette Scene  
96. 森の展示室UTE実行委員会  
勝央町  
97. 勝央美術文学館 岡本綺堂顕彰 こども怪談コンクール5周年記念 プロジェクト  
奈義町  
98. GifTree  
99. 美作ネットワーク協議会

# 美作エリア MIMASAKA AREA ACTIVIST

- 津山市  
82. 広野子ども歌舞伎教室  
83. 子どもソーシャルワーカーねっと津山 (みんなの居場所 かむ・かむ)  
84. 美作サイエンスフェア実行委員会  
85. 自信のある河辺っ子を育てる会  
86. Nishilma25  
真庭市  
87. 山中一揆義民顕彰会  
88. 霜月祭実行委員会  
89. まにわ本プロジェクト実行委員会  
90. 旧菅野亭で遊ぶ会  
91. 真庭学習会  
92. NPO法人manabo-de  
93. 蒜山ミライ会議  
94. まにわ図書館サポーターズ

真庭市 88 霜月祭実行委員会 「虎の巻」へ。 若者と紡ぐ、 言葉を超えた 伝統の翻訳 入江 正親

津山市 85 自信のある 河辺っ子を育てる会 ふるさと河辺の 魅力発見 地域で自信を もって学ぶ 河辺っ子の 育成 小林 圓裕

津山市 82 広野子ども歌舞伎教室 地域の伝統文化の 継承を図る 広野子ども 歌舞伎教室 第4回公演 柿内 穂

真庭市 89 まにわ本プロジェクト 実行委員会 「まにわし 百人百冊物語」 の出版 三船昌行

津山市 86 Nishilma25 「パブリックアートを知る」 彫刻の魅力・ 大切さ体験・ 彫刻巡り旅 桜井 由子

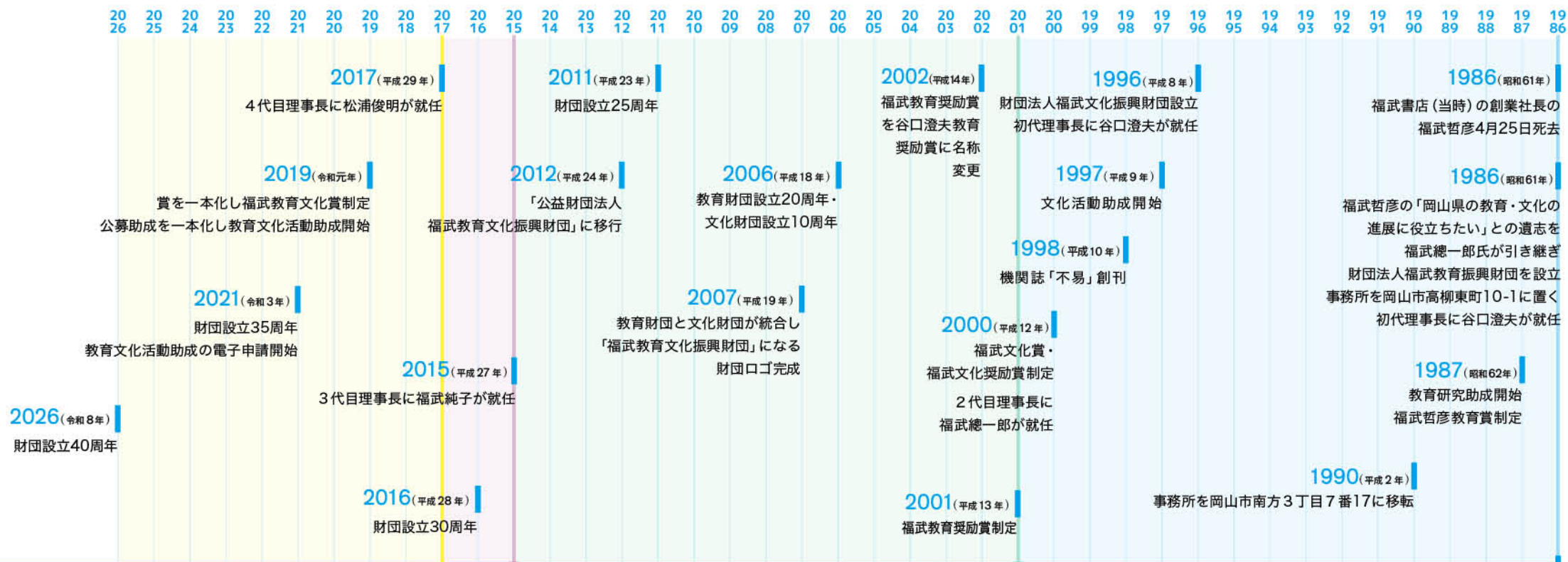
津山市 83 子どもソーシャルワーカー ねっと津山 (みんなの居場所 かむ・かむ) 支援者の関わりから 考える安心の場づくり 光井麻理 真木 佐江子

真庭市 90 旧菅野亭で遊ぶ会 地域野菜で 料理を作ろう！ 語り部in蚊帳、 ニンジャ菅野邸2 嶋田 雄一郎

真庭市 87 山中一揆義民顕彰会 歴史講座を 取りまとめた冊子 を活用し 「山中一揆」を 次世代に伝承 浜子 尊行

津山市 84 美作サイエンスフェア 実行委員会 美作サイエンスフェア を実施し、子供達に 理科の面白さを 伝える。 坪井 明憲

# 財団のあゆみ



第4代理事長  
松浦俊明



2017-

第3代理事長  
福武純子



2015-2017

第2代理事長  
福武総一郎



2001-2015

初代理事長  
谷口澄夫



1986-2001

設立者  
福武哲彦



文化芸術を通じた社会課題の解決というのは、財団の存在意義そのものだと思うのですが、財団が直接、何かをするわけではないのですが、世の中には、文化芸術を通じて課題を解決しようとしている人がたくさんいて、その活動の後押しをするのが財団の役割です。そういう芽がどんどん出てくるような地域になるように、今後も引き続き波及効果のある活動をどんどん応援していきたいです。

― 機関誌「FUEKI」64号(2017)理事長就任記念対談から

そもそも文化というのは、みんなに知ってもらいたい「いいね」という声がたくさんあって、それが定着するんだと思います。

― 機関誌「FUEKI」58号(2015)理事長就任記念対談から

人々を心豊かにするのは経済活動だけではできません。経済の繁栄だけを目的化すると、かえって人々是不幸になると思います。文化、すなわち「人々が幸せになれる、いいコミュニケーション(お年寄りの笑顔があふれる社会づくり)」のために経済はあるのだと私は思います。

― 「瀬戸内海と私」(2010)から

機関誌の題名を「不易」としたのは、教育と文化のいずれにおいても、変遷著しい社会や人の心は十分に認識し、それらに対応することは必要ではありませんが、いたずらに社会の変転に右顧左眈することなく、財団の依って立つべき不変の基本理念をしっかりと押さえ、それに従って財団を運営し、諸活動を展開していくかなければならないという、自らの戒めを表したものであります。

― 機関誌「不易」創刊号(1998)ご挨拶文から

「文化化」は、即座に収益面でプラスにならないかもしれないが、私は「文化」からはずれるような仕事はしたくない。「文化」に投資して、それが回りまわって企業全体をバックアップするという形になれば、最高の投資といえる。直接的に収益につながるがなくても、会社の質の向上になる。例えば福武文化財団の設立などは、私のビッグドリームである。

― 「福武の心」から

1986年の設立以来、「郷土の教育・文化の振興」を掲げ、岡山に根ざした活動を続けて40年。子どもたちの健やかな成長を願う教育支援から、地域を彩る文化活動の助成まで、時代の要請に応えながら一歩ずつ歩みを進めてまいりました。これまでの軌跡を、歴代理事長の想いととも振り返ります。

**福武哲彦ものがたり**  
「第一話」教育一家に生まれて

福武教育文化振興財団は福武哲彦（福武書店・現ベネッセコーポレーション）初代社長（長）の遺志を継いで福武總一郎が設立しました。設立40周年を迎えるにあたり、福武哲彦とは、一体どのような人物だったのか、その原点に触れてみたいと思います。



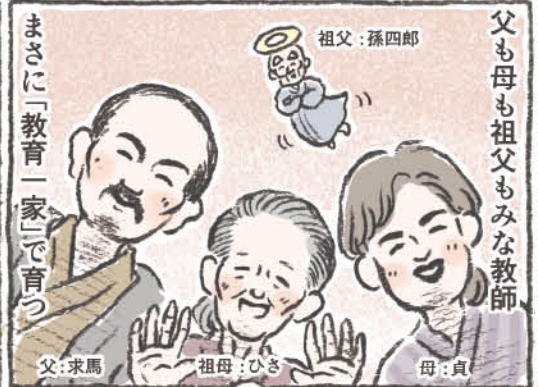
大正5年1月10日  
吉備郡日近村  
(現在の岡山市北区足守)



女の子が続いていた  
福武家に男の子が生まれた



子は「哲彦」と名付けられた



父も母も祖父もみな教師  
祖父：孫四郎  
父：求馬  
祖母：ひさ  
母：貞



大正11年  
哲彦は母の貞が勤める  
日近小学校に入学する



しかしそこで「奇妙な立場に置かれることに…」



福武君っ  
静かになさい  
たまたま1年生の担任になったのは母の貞であった



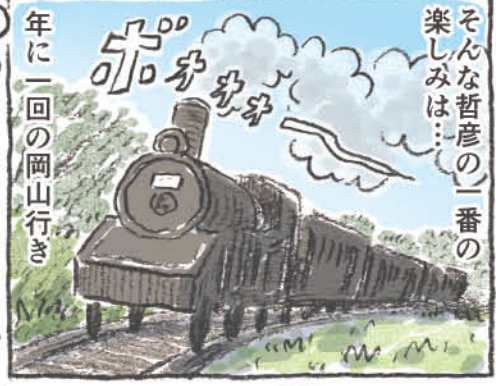
お母さ…  
じゃなくて  
先生っ  
貞は、特別に  
気を遣うことになった



哲彦は成績優秀で  
クラスの大将の  
ような存在だった



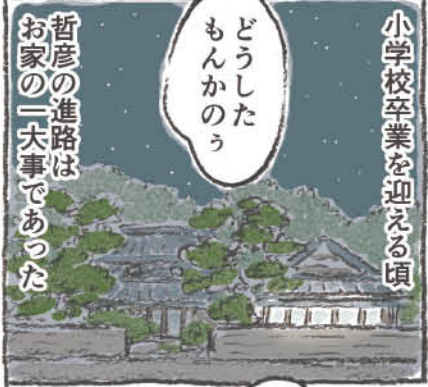
当時はまだ、着物が主流  
という中で…  
洋服で登校したのは  
村で初めてのことだった



そんな哲彦の一番の  
楽しみは…  
年に一回の岡山行き



外国みたい  
やなあ〜っ  
バスや汽車を乗りついで  
行く岡山は大会に思えた



小学校卒業を迎える頃  
どうした  
もんかのう  
哲彦の進路は  
お家の二大事であった



中学校へやって  
上へ上へと進めたら  
大阪や東京  
へ出ていって  
しもうて  
岡山に  
帰ってこん  
じゃろう



師範学校に行つて  
先生になれば  
岡山県内を  
ぐるぐる回る  
だけやから  
師範に行かす方が  
ええじゃろうっ



それが  
ええっ  
パチパチ  
パチ



その後、教師を目指すため  
師範学校の  
附属小学校高等科へ通う



学校まで20kmの通学は  
大変だったが  
哲彦ははりきっていた



電車や汽車に乗れることが  
嬉しくて仕方なかったのだ

あさののい 1985年千葉県生まれ。岡山県奈義町を拠点にマンガやイラストを描く。奈義町での生活を綴ったマンガ「こんには、なぎさん」や、長良愛生園に通う中で「できごと」を描いたマンガ「こんには、愛生園」など、webにて更新中。

参考：『福武書店30年史』（福武書店）

# 僕が、活動をはじめた理由

アートとクラフトで人々の生活をもっと楽しく、もっと美しく、そして創造性溢れる世の中に。そんな想いをもってプロジェクトはスタートしました。プロジェクト名は19世紀後半のイギリスを中心に興った芸術・社会運動に由来しています。私は10年以上中学校で美術教育を行うことを通して、生徒が美術を愛好し、創造力を発揮する姿をたくさん見てきました。そして美術が人や世の中に与える影響の大きさと可能性について認識を深めてきました。

AIやデジタル技術の発達で世の中が急速に変化し、便利で質の高いものが簡単に手に入る物質的に豊かな時代になりました。このような時代において、自分の手でものをつくることの魅力は忘れられがちです。しかし、「ものをつくる楽しさ」や「心を形や色にする充実感」、「見たり使ったりする度に浮かぶ思い出」は美術のつくる活動があるからこそであり、この充実感や人々のウェルビーイングを支えることとなります。

これまで携わってきた中学校教員としては、美術教育の可能性と美術教師としての役割を強く感じ、やりがいを持って教育を実践してきました。しかし、その一方で、地域社会に向けてできることの限界も感じていたからこそ、学校教員としての枠に収まらない活動を始めたいと考えるようになりました。

世の中の美術に対する認識との差を埋め、人々の生活に美術がさらに身近なものになるようにしたいと思います。そのためにも、学校の美術室を地域の創造活動の場として開放していきたいと思えます。

## 美術室を

## 地域の創造活動の場に

文・達脇知弘 岡山アート&クラフトプロジェクト代表

## 岡山アート&クラフトプロジェクト

「生活をアートとクラフトでもっと楽しく、もっと美しく」を目的としたプロジェクト。中学校の美術室で充実した創造体験を地域の人々に提供し、人と人、人とアートを繋げることを目指す活動。ワークショップでは日本画や油絵などの道具や材料をはじめ様々なモノに触れることができ、創造活動の魅力に浸ることができる。



油絵に挑戦



七宝焼作成



大学に入ったら、興味を持ったことはとりあえずやってみようと思っていました。中学・高校時代、挑戦する勇気が持てずに見送ってしまった活動が多かったからです。私は愛知県出身で、岡山県を訪れたのは受験の際が初めてでした。そのため大学一年次は「岡山県を知ること」に重きを置き、岡山県中山間地域協働センターでのボランティアや新見市三室地区地域おこし協力隊など、県内各地の活動に参加しました。そこで地域ごとの特色や魅力を学ぶ貴重な経験を得ることができました。

2年次になり時間的・精神的に余裕ができた頃、医学生として岡山にどのように貢献できるかを考えるようになり、IFMSA-Japan (国際医学生連盟 日本) の活動を地域的に実施しようと思いました。中でも、日本各地で行われている「ぬいぐるみ病院」は、子どもへの保健教育を目的としており、「医学生として」「地域に貢献する」という思いに合致していると感じました。

当初はOMSAの部員集めや組織運営の確立に手一杯になってしまっていました。ですが、幸いなことに私は多くの人に恵まれました。ぬいぐるみ病院の実施方法を一から教えてくださった他大学の先輩方や、活動に興味を示し共に取り組んでくれた仲間の支えにより、昨年度は3回開催することができました。

今後も様々な困難があると思いますが、OMSAが岡山で活動を続けていけるよう、試行錯誤しながら行動し続けたいです。

## 医療系学生ならではの 地域貢献を

文・百合草綺乃  
OMSA(Okayama Medical Students' Associations) 代表

## OMSA (Okayama Medical Students' Associations)

全国の医療系学生が集まるIFMSA-Japanの活動を、地域規模で行うために設立。医療系学生という立場だからできることを考え、行動し、地域に貢献する。ぬいぐるみを患者に見立てて疑似診察を行うぬいぐるみ病院の活動を行い、医療や健康に関心を持ってもらう。



公民館でぬいぐるみ病院の集合写真



保育園でのぬいぐるみ病院の様子



# 私が、活動をはじめた理由



取材・文 森分 志学

やさしい日本語って  
一体なんでしょう。

合同会社マーブルワークショップ

### 高尾 戸美

TAKAO Hiromi

札幌市豊平川さけ科学館との出会いが博物館に興味を持つきっかけ。国立科学博物館、民間企業でのミュージアム企画業務を経て、2014年に合同会社マーブルワークショップを設立。2017年からは多摩六都科学館で学芸員として展示、教育普及、地域連携の他、多文化共生プロジェクトを立ち上げ、やさしい日本語の導入に取り組む。2023年に岡山県へ移住。現在は、全国のミュージアムの企画展やガイドブックのやさしい日本語監修をはじめ、スタッフ研修、研究活動を展開している。この他、大学の非常勤講師、井原にほんご教室のボランティアとして活動中。好きなものはシャケ、ミュージアム、旅行、畑仕事。

合同会社マーブルワークショップは、「やさしい日本語」を博物館や美術館で実践し、さまざまな人にミュージアムをひらいている。やさしい日本語は、外国人など日本語に不慣れな方のために、わかりやすい表現にした日本語。阪神・淡路大震災で外国人住民に避難情報がうまく伝わらなかったことへの反省に起源がある。しかし、やさしい日本語は、いまや誰にとっても、わかる、を支える言葉になっている。

## 言葉をひらくことで、 多様な人が参加できる。

学館で学芸員として働いていた2019年頃から、地域に暮らす外国人にも科学館へ来てもらえるよう、やさしい日本語をプログラムに導入した。その一つに天文グループによるプラネタリウム解説があった。在住外国人だけでなく日本語を母語とする参加者から「今日のプラネタリウムはよくわかった」と声をかけられたのだ。この取り組みは、先進事例の一つとして注目を集めた。その後、大月ヒロ子さんとの出会いがきっかけで、博士号取得に向けて岡山に移住。日本語教室にボランティアとして関わり、外国人住民と接しながら、文化人類学の修士論文をまとめた。現在は、大学での非常勤講師、美術館での仕事、そしてマーブルワークショップとしての監修・研修業務を並行しながら、博士後期で研究を進めている。博物館ややさしい日本語に精通しているだけでなく、在住外国人と継続的に関わる現場を持っている。美術館や科学館の解説を難しいと感じる人は少なくない。2025年に開催された林原美術館の企画展の調査での「文章がわかったから、初めて解説を最後まで読めた」という来館者の声は、人は「わかる」ことで楽しめるのだと教

高尾さんは、ディスプレイ企業でミュージアム・プランナーとしての経験を経て、博物館の展示をつくるだけでなく、利用者どうし関われるかを模索していた。そこで、ワークショップなど、参加者と直接関われるプログラムの可能性にひかれ、合同会社マーブルワークショップを立ち上げた。東京の科学館で学芸員として働いていた2019年頃から、地域に暮らす外国人にも科学館へ来てもらえるよう、やさしい日本語をプログラムに導入した。その一つに天文グループによるプラネタリウム解説があった。在住外国人だけでなく日本語を母語とする参加者から「今日のプラネタリウムはよくわかった」と声をかけられたのだ。この取り組みは、先進事例の一つとして注目を集めた。その後、大月ヒロ子さんとの出会いがきっかけで、博士号取得に向けて岡山に移住。日本語教室にボランティアとして関わり、外国人住民と接しながら、文化人類学の修士論文をまとめた。現在は、大学での非常勤講師、美術館での仕事、そしてマーブルワークショップとしての監修・研修業務を並行しながら、博士後期で研究を進めている。博物館ややさしい日本語に精通しているだけでなく、在住外国人と継続的に関わる現場を持っている。美術館や科学館の解説を難しいと感じる人は少なくない。2025年に開催された林原美術館の企画展の調査での「文章がわかったから、初めて解説を最後まで読めた」という来館者の声は、人は「わかる」ことで楽しめるのだと教



高尾 戸美さん

\*岡山県倉敷市でクリエイティブ・ブリュワリーの運営「IDEAL LAB」を兼務中。/「ミュージアム・コミュニケーション・プランナー

えてくれる。やさしい日本語には、plain（平易）とgentle（優しい）の両方の意味が含まれているという。情報をただ平易にするだけでなく、相手を思いやって言葉を選ぶ「優しさ」も込められているのだ。

博物館には、資料を収集・保存する役割がある一方で、広く人びとに開かれた場として参加を促す役割もある。高尾さんは、専門家にとっては当たり前でも、一般の人には意味がつかみにくい言葉について、「何を伝えたいのか」を学芸員と一緒に考えながら、伝わる表現へと置き換えていく。例えば、東京都庭園美術館のやさしい日本語ガイドブックの中で「アール・デコのデザイン」は、「左右が同じ形やまっすぐな線が多いです」と表記している。来館者は展示を見ながら「これがアール・デコなのか」と具体的な形を探し、理解することができ。単に言葉を幼くしたり、漢字にルビを振ったりするだけではない。



NPO法人だっぴ 代表理事

### 森分 志学 MORIWAKE Shigaku

1990年、岡山県倉敷市生まれ。大学院生時代に、高校生と大人の対話プログラムを高校と連携してつくる。卒業後は、教育系の広告代理店に勤務して、高大接続の領域に関わる。2017年に岡山にUターンしてNPO法人だっぴに入職し、2020年より現職。県内20市町村50校以上の学校や自治体の学校教育・社会教育に携わる。

## 岡山スケッチ vol.7

### 音の中の季節

文 ピアニスト 中桐 望

窓を開けると、やわらかな風が部屋を通り抜ける。ふと、ラフマニノフの《リラの花》を思い出す。冬の冷たさがまだ少しだけ残る、どこか緊張を帯びた春の澄んだ空気をまとったこの曲が好きで、2014年、ファーストアルバムに収めた。まだ手探りで自分の音を探し続けていた、初々しい頃の記憶とともに、そのなつかしい旋律がよみがえる。

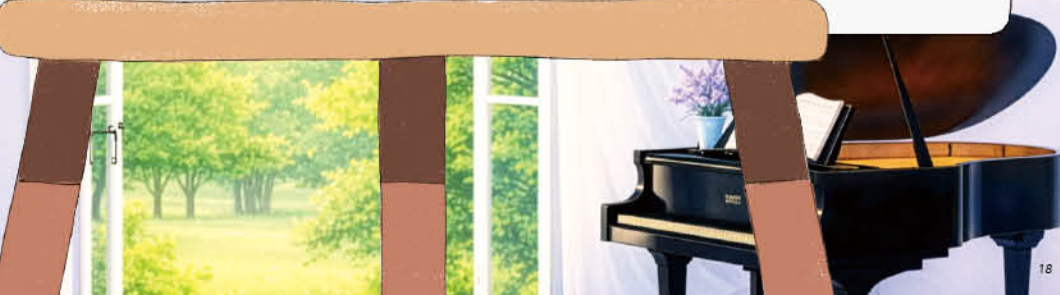
今年3月、3枚目となるアルバムのレコーディングを終えた。普段のコンサートとはまったく異なる静かな空間の中で、ただひとつの音に耳を澄ませる。体力や集中力、そして時間のリミットがある中で、今の自分の理想を最高の形で残そうと追い続けるその時間は、孤独でありながら、深く満たされるものであった。

日々の暮らしの中では、子どもたちのうるさいほどの賑やかな声に囲まれ、「ママァ」と呼ばれて手を止め、練習を切り上げることもしばしばある。あの頃と比べて、生活は大きく変わった。それでも不思議と音との距離は近づき、ほどけて、自分の出したい音が、前よりもずっとはっきりと見えるようになった。

5月。岡山が誇るオーケストラ、岡山フィルハーモニック管弦楽団の東京特別公演がサントリーホールで開催され、ソリストとしてラフマニノフの協奏曲第二番を弾く機会に恵まれた。実はこれを書いている今は、まだその日に向けて練習を重ねている最中で、少し未来のことを書いているような気持ちでもあるのだけれど、きっと、この演奏会は私の音楽人生にとって忘れられない一日となり、ひとつの大きな節目になるだろう。

そして、久しぶりに《リラの花》の楽譜を開いてみようかと思う。記憶の中にある春と、いま目の前にある春が、どんなふうにな重なっていくのかを、確かめるために。あの頃には見えていなかったものが、今の自分には少しだけ見える気がする。同じ季節が巡っても、同じ音は二度と鳴らない。過ぎていく日々のひとつひとつにそっと耳を澄ませ、大切にしたいと思う。

中桐望 NAKAGIRI Nozomi  
岡山市出身。東京藝術大学音楽学部、同大学院修士課程をともに首席で卒業。修了。日本音楽コンクール第2位、浜松国際ピアノコンクール第2位などで注目を集める。  
2014年よりポロランドで研鑽を積み、ショパン作品に特に優れた演奏を示したピアニストに贈られる日本ショパン協会賞の受賞をはじめ、岡山芸術文化賞・グランプリ、福武文化奨励賞、エネルギー音楽賞、マルセン文化賞など多数受賞。現在は岡山を拠点に国内で演奏活動を行う。



# 福武教育文化振興財団生みの親 哲彦さんが愛でたもの

柱と松の二人羽織  
写真、文 久延将大

表紙の黒松。

これは福武トレス「時の庭」にある黒松です。この庭園は1985年、福武哲彦氏の依頼で造園家・小形研三氏によって作庭され、2023年、忠実に、かつ新たによみがえりました。小形氏は「雑木の庭」を確立した近代造園家の巨匠といわれています。雑木の庭とは、シンボルツリーではなく、一本では決して華やかとはいえない木々を選び、それらが寄り添い、重なり合うことで生まれる木漏れ日や木陰、季節の葉の移ろいそのものを「協調の美」と捉え、自然を理想とした庭とのこと。

訪れたのは4月初旬。まさに春を迎えた半田山の借景に、そつと溶け込んでいる庭の雑木たち。緑が隣の緑と寄り添って、柔らかに控えめで奥ゆかしい芽吹きだての春の舞台。そこにそつとではなく威風堂々——と黒松。

吾輩は針葉常緑樹である！と。

体育館で、ブレザーを着た新入生が校長先生の話を座って聞いている、そこに一人、漆黒の学ランで立ち上がる！かの如く。どうした！なぜ座らない！さわめく館内！と、いうのは写真と言葉のアンクルによる印象操作ですが、この黒松がとにかく愉快なのです。



雑木の思想に共鳴し、そのうえで黒松を植えたいとオーダーした哲彦氏。小形氏はどう思ったのか。困り果てたのか、いや、むしろ面白かったのか。写真は教習屋からみた庭の眺めです。中央の柱に注目すると、柱が松を隠し、松が柱からはみ出しています。落としどころではなく、別の次元の絶妙を追求したお二人の「隠し」と「はみだし」。気恥ずかしく気難しくも、ほくそ笑んでしまったような何とも言えぬ気配が漂っていました。

松は松らしく威風堂々と存在し、柱は柱な顔して澄ましてそこにいる。真面目な顔した二人羽織、でも笑いを堪えてかすかに震えているような。

もう一度「時の庭」に出て全体を眺めてみる。松の威風さえ優しく包み込む雑木の哲彦に満ちた庭がそこにあり、黒松もまた庭に力強く協調しているようです。体育館の彼は壮大な夢を語り続け、その心意気は「時の庭」福武トレスの隅々に今も愉快に息づいています。

久延将大 HISANOBU Shota  
1980年岡山市生まれ。多摩美術大学で写真・映画を学び、赤磐市是里の山の上にて久延ファミカと2馬力でヒラガナ企画合同会社を営む。何とも言えない気持ちと情熱が「らしく」伝わる媒体を制作している。

FUKU TAKEY  
SATA

福武トレス  
岡山市北区の半田山の中腹にある福武家ゆかりの雑木の自然庭園。  
教習屋造り・現代建築が響きあう空間。開園日：金～日 ※不定休あり 完全予約制

## 編集後記

◆1986年、福武書店創業社長・福武哲彦の岡山の教育と文化の役に立ちたいという遺志を福武總一郎が引き継ぎ、当財団が設立されてから40年目を迎えました。今年度の「ふえき」は、改めて哲彦の想いや人柄を振り返る一年にしたいという思いを込めています。◆表紙は「哲彦さんが愛でたもの」を迫力ある写真でお届けします。また、あさのいさんによる「福武哲彦ものがたり」は、その生涯をより身近に感じていただけるよう漫画形式で綴りました。◆「福武トレス」が立つ場所は、かつて哲彦が初めて自宅を建てた敷地でもあります。家では着物で過ごし、暇を見つけては横の畑を耕していたそうです。◆連休前、彼が生まれ育った<sup>ひだまり</sup>近隣の生家や通学路を歩きながら、元気に駆け抜けていった幼き日の姿に思いを馳せました。◆今年度の助成対象となるアクティビストも決定し、活気あふれるイベントの便りが届き始めています。哲彦が蒔いた種は、40年の時を経て、しっかりと花を咲かせようとしています。(W)

機関誌「ふえき」  
読者アンケート  
ご協力ください。

▼アクセスは  
こちらから



公益財団法人 福武教育文化振興財団  
人づくり、地域づくりを応援します

〒700-0034 岡山県岡山市北区高柳東町9-1 株式会社ベネッセコーポレーション高柳別館1階  
TEL 086-221-5254 FAX 086-232-3190 URL <https://www.fukutake.or.jp/>  
E-MAIL [eczaidan@fukutake.or.jp](mailto:eczaidan@fukutake.or.jp)



福武教育文化振興財団  
ウェブサイト



コミュニケーション・マガジン  
and F | アンドエフ



教育文化活動助成  
成果報告書アーカイブ

題名「不易」には、「時代を超えて優れたものに共通する本質的なもの」を大切にしたいという谷口澄夫初代理事長の思いが込められています。

## 機関誌 不易

vol.90 2026.5.25

編集・発行 公益財団法人 福武教育文化振興財団  
制作 株式会社吉備人  
デザイン 久延ファミカ(ヒラガナ企画合同会社)  
印刷 研精堂印刷株式会社